

必ず、注意事項を読んで報告書を作成してください。

「設置計画履行状況報告書」作成に係る全体の注意事項

提出いただいた報告書に基づき、調査を実施しますので、本報告書は「認可申請書」や「設置届出書」と同様に、事実在即して正確に記すようにお願いします。
なお、本報告書提出後、数値等に誤りがあつたとしても原則差し替えは認めません。
提出前に今一度、誤りがないかを確認してください。

《提出方法》

1. 本報告は、各担当のメールアドレスにエクセルファイル、PDFファイルをそれぞれ1部添付して提出してください。
2. PDFファイルについては、全ページ通しページを付すとともに、表紙の次に目次を入れてください。

《作成方法》

1. 必ず報告年度用の最新の様式を使用して作成してください。
2. 本報告書は、設置計画について、認可又は届出時から報告年度までの履行状況を報告するための様式です。
3. 本報告書は、「設置区分」ごとに作成してください。
※「設置区分」とは、設置時の「基本計画書」の「計画の区分」（「学部を設置」、「学部の学科を設置」等）に記載した区分のことです。
4. 本報告書の全ての項目は、報告年度の5月1日現在で作成してください。
5. 様式中の項目にある注意事項は削除せず、記載したままにしてください。
※エクセルファイルのコメント機能で記載している注意事項等は提出時には削除もしくは非表示にしてください。
6. 該当がない項目については様式を削除せず、「該当なし」と記載してください。
7. 教職大学院、専門職大学、専門職短期大学、専門職学科については、別様式の「補足説明資料」も作成してください。
8. 改元に伴う元号は、適宜更新ください。

学校コード F113310104009

注3

設置年度 令和 3年度

計画の区分： 研究科の設置

注1

届出

注2

東京医療保健大学大学院 千葉看護学研究科 看護学専攻 (M)

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人青葉学園
令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局 (課) 名

職名・氏名

チバジムフチョウ タケガミマサキ
千葉事務部長 竹上昌毅

電話番号

047-495-7751

(夜間)

047-495-7751

e-mail

chiba-master@thcu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

千葉看護学研究科

＜看護学専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	13
6. 附帯事項等に対する履行状況等	24
7. その他全般的事項	27

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 青葉学園

(2) 大学名

東京医療保健大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒273-8710 千葉県船橋市海神町西 1-1042-2
(〒141-8648 東京都品川区東五反田 4-1-17)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タムラ テツオ) 田村 哲夫 (平成14年4月)		
学長	(キムラ サトシ) 木村 哲 (平成25年4月)	(カメヤマ シュウジ) 亀山 周二 (令和3年4月)	任期満了のため変更 令和3年4月1日(3)
研究科長	(ミヤモト チヅコ) 宮本 千津子 (平成30年4月)		
学科長等	(ミヤモト チヅコ) 宮本 千津子 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)
令和4年度に報告する内容 → (4)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部や学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください（作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」を確認してください）。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和4年度までの5年間）ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
千葉看護学研究科 看護学専攻 修士（看護学）	保健衛生学関係 （看護学関係）	2 年	8 人	年次 人	16 人	新規入学者を 募集中	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人	人	人	人	人	人	人	人	8	人	人	8	1.25倍	倍	
志願者数	()	()	()	()	()	()	()	()	9	()	()	12			
受験者数	()	()	()	()	()	()	()	()	9	()	()	11			
合格者数	()	()	()	()	()	()	()	()	9	()	()	11			
B 入学者数	()	()	()	()	()	()	()	()	9	()	()	11			
入学定員超過率 B/A									1.12			1.37			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和4年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	9 (-) [-]	0 (-) [-]	11 (-) [-]	0 (-) [-]	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	0 (-) [-]	0 (-) [-]	9 (-) [-]	0 (-) [-]	
3年次			/		/		[] ()	[] ()	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]
4年次	/						/		/		(-) [-]
計			[] ()	[] ()	[] ()	[] ()					[] ()

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	9人	0人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	11人	0人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
合計		0人		人	人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \text{\#DIV/0!} \%$$
数式が入力されています。

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \text{\#DIV/0!} \%$$
数式が入力されています。

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \text{\#DIV/0!} \%$$
数式が入力されています。

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{9} = 0 \%$$
数式が入力されています。

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{11} = 0 \%$$
数式が入力されています。

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<千葉看護学研究科 看護学研究科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	看護機能推進特論	1前	2			5	2					
	看護機能推進演習	1後	2			3	2	2				
	保健情報リテラシー	1・2後	1			1		1				
	ヘルス・グローカリゼーション	1・2後	1			1	1	1				
	看護理論	1・2前		2		3	1	2				兼2
	生命倫理	1・2前		2								兼1
	看護教育論	1・2前		2		2	1	3				
	ケアシステム論	1・2前		2			1	1				兼1
	アカデミック・スキルⅠ (文章表現)	1前		1								兼1
	アカデミック・スキルⅡ (文章読解)	1後		1				2				
	文献講読	1・2後	1			5				1		
小計 (11科目)			7	10		6	6	7	1	0	兼5	
専門家目	コミュニティ・ケア特論	1・2前		2		1	4					
	コミュニティ・ケア演習	1・2後		2			4	1	1			
	生涯発達看護特論	1・2前		2		3	3					
	生涯発達看護演習	1・2後		2		2	1	1				
	看護職キャリア支援特論	1・2前		2		2		1				
	看護職キャリア支援演習	1・2後		2		2		1				
	看護マネジメント特論	1・2前		2		2		2				
	看護マネジメント演習	1・2後		2		1		2				
	看護研究方法Ⅰ (リテラシー)	1前	1			1				1		兼1
	看護研究方法Ⅱ (演習)	1・2後		1		1		2				
	小計 (10科目)		1	17		6	6	5	2	0		兼1
特別研究(修士論文)	2通	8			5	1						
小計 (1科目)	-	8			5	1						
合計(22科目)	-	16	27	0	6	6	8	2	0		兼6	
卒業要件及び履修方法												
必修科目単位数8単位、選択科目14単位、特別研究(修士論文)8単位、合計30単位以上を修得し、論文審査及び最終試験に合格しなければならない。												

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	看護機能推進特論	1前	2			5	1					
	看護機能推進演習	1後	2			3	3	2				
	保健情報リテラシー	1・2後	1			1	1					
	ヘルス・グローカリゼーション	1・2後	1			1	1	1				
	看護理論	1・2前		2		3	2					兼3
	生命倫理	1・2前		2								兼1
	看護教育論	1・2前		2		2	1	2				兼1
	ケアシステム論	1・2前		2				1				兼2
	アカデミック・スキルⅠ (文章表現)	1前		1								兼1
	アカデミック・スキルⅡ (文章読解)	1後		1				1	1			兼1
	文献講読	1・2後	1			5						兼1
小計 (11科目)			7	10		6	5	6	0	0	兼10	
専門家目	コミュニティ・ケア特論	1・2前		2		1	2					兼2
	コミュニティ・ケア演習	1・2後		2			2	1				兼2
	生涯発達看護特論	1・2前		2		3	2					兼1
	生涯発達看護演習	1・2後		2		2	2	1				兼1
	看護職キャリア支援特論	1・2前		2		2		1				
	看護職キャリア支援演習	1・2後		2		2		1				
	看護マネジメント特論	1・2前		2		2	1	1				
	看護マネジメント演習	1・2後		2		1	1	1				
	看護研究方法Ⅰ (リテラシー)	1前	1			1						兼2
	看護研究方法Ⅱ (演習)	1・2後		1		1		1				兼1
	小計 (10科目)		1	17		6	5	4	0	0		兼6
特別研究(修士論文)	2通	8			5	1						
小計 (1科目)	-	8			5	1						
合計(22科目)	-	16	27	0	6	5	7	0	0		兼12	
卒業要件及び履修方法												
必修科目単位数8単位、選択科目14単位、特別研究(修士論文)8単位、合計30単位以上を修得し、論文審査及び最終試験に合格しなければならない。												

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	看護機能推進特論	1前	2			5	2					
	看護機能推進演習	1後	2			3	2	2				
	保健情報リテラシー	1・2後	1			1		1				
	ヘルス・グローカリゼーション	1・2後	1			1	1	1				
	看護理論	1・2前		2		3	1	2				兼2
	生命倫理	1・2前		2								兼1
	看護教育論	1・2前		2		2	1	3				
	ケアシステム論	1・2前		2			1	1				兼1
	アカデミック・スキルⅠ（文章表現）	1前		1								兼1
	アカデミック・スキルⅡ（文章読解）	1後		1				2				
	文献講読	1・2後	1			5				1		
	小計（11科目）			7	10		6	6	7	1	0	兼5
専門科目	コミュニティ・ケア特論	1・2前		2		1	4					
	コミュニティ・ケア演習	1・2後		2			4	1	1			
	生涯発達看護特論	1・2前		2		3	3					
	生涯発達看護演習	1・2後		2			2	1	1			
	看護職キャリア支援特論	1・2前		2		2		1				
	看護職キャリア支援演習	1・2後		2		2		1				
	看護マネジメント特論	1・2前		2		2		2				
	看護マネジメント演習	1・2後		2		1		2				
	看護研究方法Ⅰ（リテラシー）	1前	1			1				1		兼1
	看護研究方法Ⅱ（演習）	1・2後		1		1		2				
	小計（10科目）		1	17		6	6	5	2	0	兼1	
特別研究（修士論文）	2通	8			5	1						
小計（1科目）	-	8			5	1						
合計（22科目）	-	16	27	0	6	6	8	2	0	兼6		
卒業要件及び履修方法												
必修科目単位数8単位、選択科目14単位、特別研究（修士論文）8単位、合計30単位以上を修得し、論文審査及び最終試験に合格しなければならない。												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は適宜削除してください。（2つの表が1ページに表示されるようにしてください。）
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和3年度】

特になし。

【令和4年度】

- ・「看護機能准特論」：加藤星花准教授が退職したため「准教授2」から「准教授1」に変更。
- ・「看護機能准演習」：渡邊章子准教授を新たに担当に加えたため、「准教授2」から「准教授3」に変更。
- ・「保健情報リテラシー」：安藤瑞穂講師の准教授昇格により、「准教授1」を追加し、「講師1」を削除。
- ・「看護理論」：安藤瑞穂講師が准教授に昇格し、山花令子講師が専任から兼任講師に変わったため、「准教授1」から「准教授2」に変更し、「講師1」を削除し、「兼2」を「兼3」に変更。
- ・「看護教育論」：平田美和講師が専任から兼任講師に変わったため、「講師3」から「講師2」に変更し、「兼1」を追加。
- ・「ケアシステム論」：山本由子准教授が専任から兼任講師に変わったため、「准教授1」を削除し、「兼1」から「兼2」に変更。
- ・「アカデミック・スキルⅡ（文章読解）」川村牧子准教授が専任から兼任講師に変わったため、「准教授2」から「准教授1」へ変更し、「兼1」を追加。加えて新たに専任の伊東真理講師を担当に加え、「講師1」を追加。
- ・「文献講読」：増澤祐子助教が兼任講師に変わったため、「助教1」を削除し、「兼1」を追加。
- ・「コミュニティ・ケア特論」：加藤星花准教授と川村牧子准教授が専任から兼任講師に変わったため、「准教授4」から「准教授2」に変更し、「兼2」を追加。崎山紀子助教が退職したため、「助教1」を削除。
- ・「コミュニティ・ケア演習」：加藤星花准教授と川村牧子准教授が専任から兼任講師に変わったため、「准教授4」から「准教授2」に変更し、「兼2」を追加。崎山紀子助教が退職したため、「助教1」を削除。
- ・「生涯発達看護特論」：山本由子准教授が専任から兼任講師に変わり、加藤星花准教授が退職。新たに渡邊章子准教授を担当に追加したため、「准教授3」から「准教授2」に変更し、「兼1」を追加。
- ・「生涯発達看護演習」：山本由子准教授が専任から兼任講師に変わり、増澤祐子助教が退職。新たに渡邊章子准教授を担当に追加したため、「准教授2」のまま変わらず、「助教1」を削除し、「兼1」を追加。
- ・「看護マネジメント特論」：安藤瑞穂講師が准教授に昇格したため、「准教授1」を追加し、「講師2」から「講師1」に変更。
- ・「看護マネジメント演習」：安藤瑞穂講師が准教授に昇格したため、「准教授1」を追加し、「講師2」から「講師1」に変更。
- ・「看護研究方法Ⅰ（リテラシー）」：増澤祐子助教が専任から兼任講師に変わったため、「助教1」を削除し、「兼1」から「兼2」に変更。
- ・「看護研究方法Ⅱ（演習）」：山花令子講師が専任から兼任講師に替わったため、「講師2」から「講師1」へ変更し、「兼1」を追加。
- ・「特別研究（修士論文）」：山本由子准教授が兼任講師に変わったことから、当該科目を田久保由美子准教授が担当。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
7 科目	15 科目	0 科目	22 科目	7 科目 [±0]	15 科目 [±0]	0 科目 [±0]	22 科目 [±0]	変更なし

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

--

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{22} = \boxed{} 0\%$$

▲ 数式が入力されています。

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
	校舎敷地	36,022 36,534 37,384㎡	㎡	㎡	36,022 36,534 37,384㎡	校舎敷地 錯誤による修正 (R4) 校舎敷地 錯誤による修正 (R3)			
	運動場用地	10,503㎡	㎡	㎡	10,503㎡				
	小 計	46,525 47,037 47,887㎡	㎡	㎡	46,525 47,037 47,887㎡				
	そ の 他	4,597㎡	㎡	㎡	4,597㎡				
	合 計	51,123 51,634 52,484㎡	㎡	㎡	51,123 51,634 52,484㎡				
(2) 校 舎	専 用	55,082 54,689㎡	㎡	㎡	55,082 54,689㎡	大学全体 校舎 錯誤による修正 (R3)			
	(55,082 54,689㎡)	(㎡)	(㎡)	(55,082 54,689㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	71室	67室	35室	15室 (補助職員 人)	0室 (補助職員 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		大学全体			
	千葉看護学研究科			29 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体 電子ジャーナルは大学契約、全キャンパス閲覧可	
	千葉看護学研究科	137,823 [3,300] (144,343 [3,300]) (130,423 [3,120])	1,165 [230] (1,330 [233]) (1,135 [215])	4,351 [2,909] (4,453 [2,918]) (4,331 [2,889])	4,013 (4,206) (3,953)	15,397 (14,943)	389 (389)		
	計	137,823 [3,300] (144,343 [3,300]) (130,423 [3,120])	1,165 [230] (1,330 [233]) (1,135 [215])	4,351 [2,909] (4,453 [2,918]) (4,331 [2,889])	4,013 (4,206) (3,953)	15,397 (14,943)	389 (389)		
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体			
	2,258㎡	487席		148,790冊					
(7) 体 育 館	面 積	体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				大学全体 体育施設増 (R4)			
	5,939 5,678㎡								
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	400千円	400千円	図書購入費	10,000千円	15,000千円	15,000千円	
	共同研究費等	7,000千円	7,000千円	設備購入費	40,000千円	25,000千円	25,000千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	1,584千円	1,004千円	千円	千円	千円	千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学経常経費補助金						

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	〇〇大学						学生募集停止学科数	1	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	1	備考
	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号					
	年	人	年次人	人		倍	倍		年度	年度	年度
医療保健学部		280	—	1,120		1.00	0.86				
看護学科	4	100	—	400	学士(看護学)	1.15	1.24		平成17年度	五反田キャンパス 東京都品川区東五反田4-1-17	
医療栄養学科	4	100	—	400	学士(栄養学)	0.90	0.65		平成17年度	世田谷キャンパス 東京都世田谷区世田谷3-11-3	
医療情報学科	4	80	—	320	学士(医療情報学)	0.94	0.66		平成17年度	世田谷キャンパス 東京都世田谷区世田谷3-11-3	
東が丘・立川看護学部		200	—	200		—	—				令和2年度より募集停止
看護学科	4	200	—	200	学士(看護学)	—	—		平成22年度	国立病院機構キャンパス 東京都目黒区東が丘2-5-1	
東が丘看護学部		100	—	300							
看護学科	4	100	—	300	学士(看護学)	1.18	1.16		令和2年度	国立病院機構キャンパス 東京都目黒区東が丘2-5-1	
立川看護学部		100	—	300							
看護学科	4	100	—	300	学士(看護学)	1.18	1.14		令和2年度	国立病院機構立川キャンパス 東京都立川市緑町3256	
千葉看護学部		100	—	400							
看護学科	4	100	—	400	学士(看護学)	1.11	1.10		平成30年度	船橋キャンパス 千葉県船橋市海神町西1-1042-2	
和歌山看護学部		90	—	360							
看護学科	4	90	—	360	学士(看護学)	1.14	1.08		平成30年度	雄湊キャンパス 和歌山県和歌山市東坂ノ上丁3番地 日赤和歌山医療センターキャンパス 和歌山県和歌山市小松原通4-20	
大学院											
医療保健学研究科 医療保健学専攻 (修士課程)	2	25	—	50	修士(看護学) (感染制御学) (医療栄養学) (医療保健情報学) (助産学) (歯手術医療安全学)	1.14	1.12		平成19年度	五反田キャンパス 東京都品川区東五反田4-1-17	
医療保健学専攻 (博士課程)	3	4	—	12	博士(感染制御学) (歯手術医療安全学)	2.53	2.58		平成21年度	五反田キャンパス 東京都品川区東五反田4-1-17	
看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)	2	30	—	60	修士(看護学) (助産学)	1.08	1.13		平成25年度	国立病院機構キャンパス 東京都目黒区東が丘2-5-1	
看護学研究科 看護学専攻 (博士課程)	3	2	—	6	博士(成育看護学) (地球環境保健学)	0.17	0.00		平成26年度	国立病院機構キャンパス 東京都目黒区東が丘2-5-1	
和歌山看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)	2	12	—	24	修士(看護学)	0.83	0.67		令和2年度	日赤和歌山医療センターキャンパス 和歌山県和歌山市小松原通4-20	
千葉看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)	2	8	—	16	修士(看護学)	1.25	1.38		令和3年度	船橋キャンパス 千葉県船橋市海神町西1-1042-2	

(注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
 ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず、履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<千葉看護学部 看護学科>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	宮本 千津子 (58)
		<令和3年4月>
		看護機能推進特論 看護機能推進演習 文献講読 看護マネジメント特論 看護マネジメント演習 特別研究(修士論文)
専	教授	阿部 恭子 (52)
		<令和3年4月>
		看護理論 看護機能推進演習 保健情報リテラシー 看護職キャリア支援特論 看護職キャリア支援演習 生涯発達看護特論
専	教授	小黒 道子 (47)
		<令和3年4月>
		看護機能推進特論 ヘルス・ケア・ローカリゼーション 文献講読 看護研究方法I(リサーチ) 生涯発達看護特論 特別研究(修士論文)
専	教授	篠木 絵理 (55)
		<令和3年4月>
		看護機能推進特論 看護機能推進演習 文献講読 看護マネジメント特論 生涯発達看護特論 特別研究(修士論文)

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	宮本 千津子 (59)
		<令和3年4月>
		看護機能推進特論 看護機能推進演習 文献講読 看護マネジメント特論 看護マネジメント演習 特別研究(修士論文)
専	教授	阿部 恭子 (53)
		<令和3年4月>
		看護理論 看護機能推進演習 保健情報リテラシー 看護職キャリア支援特論 看護職キャリア支援演習 生涯発達看護特論
専	教授	小黒 道子 (48)
		<令和3年4月>
		看護機能推進特論 ヘルス・ケア・ローカリゼーション 文献講読 看護研究方法I(リサーチ) 生涯発達看護特論 特別研究(修士論文)
専	教授	篠木 絵理 (56)
		<令和3年4月>
		看護機能推進特論 看護機能推進演習 文献講読 看護マネジメント特論 生涯発達看護特論 特別研究(修士論文)

【令和4年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	宮本 千津子 (60)
		<令和3年4月>
		看護機能推進特論 看護機能推進演習 文献講読 看護マネジメント特論 看護マネジメント演習 特別研究(修士論文)
専	教授	阿部 恭子 (54)
		<令和3年4月>
		看護理論 看護機能推進演習 保健情報リテラシー 看護職キャリア支援特論 看護職キャリア支援演習 生涯発達看護特論
専	教授	小黒 道子 (49)
		<令和3年4月>
		看護機能推進特論 ヘルス・ケア・ローカリゼーション 文献講読 看護研究方法I(リサーチ) 生涯発達看護特論 特別研究(修士論文)
専	教授	篠木 絵理 (57)
		<令和3年4月>
		看護機能推進特論 看護機能推進演習 文献講読 看護マネジメント特論 生涯発達看護特論 特別研究(修士論文)

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	清水 準一 (46) <令和3年4月>
		看護機能推進特論 看護教育論 文献講読 看護研究方法Ⅱ(演習) コミュニティ・ケア特論 看護理論 特別研究(修士論文)
専	教授	吉田 澄恵 (56) <令和3年4月>
		看護機能推進特論 看護教育論 文献講読 看護職キャリア支援特論 看護職キャリア支援演習 看護理論 特別研究(修士論文)
専	准教授	伊藤 美千代 (53) <令和3年4月>
		看護機能推進特論 看護教育論 コミュニティ・ケア特論 コミュニティ・ケア演習
専	准教授	遠藤 亜貴子 (51) <令和3年4月>
		ヘルス・ケア・ローカリゼーション 看護機能推進演習 コミュニティ・ケア特論 コミュニティ・ケア演習
専	准教授	加藤 星花 (45) <令和3年4月>
		看護機能推進特論 コミュニティ・ケア特論 コミュニティ・ケア演習 生涯発達看護特論

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	清水 準一 (47) <令和3年4月>
		看護機能推進特論 看護教育論 文献講読 看護研究方法Ⅱ(演習) コミュニティ・ケア特論 看護理論 特別研究(修士論文)
専	教授	吉田 澄恵 (57) <令和3年4月>
		看護機能推進特論 看護教育論 文献講読 看護職キャリア支援特論 看護職キャリア支援演習 看護理論 特別研究(修士論文)
専	准教授	伊藤 美千代 (54) <令和3年4月>
		看護機能推進特論 看護教育論 コミュニティ・ケア特論 コミュニティ・ケア演習
専	准教授	遠藤 亜貴子 (52) <令和3年4月>
		ヘルス・ケア・ローカリゼーション 看護機能推進演習 コミュニティ・ケア特論 コミュニティ・ケア演習
専	准教授	加藤 星花 (46) <令和3年4月>
		看護機能推進特論 コミュニティ・ケア特論 コミュニティ・ケア演習 生涯発達看護特論

【令和4年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	清水 準一 (48) <令和3年4月>
		看護機能推進特論 看護教育論 文献講読 看護研究方法Ⅱ(演習) コミュニティ・ケア特論 看護理論 特別研究(修士論文)
専	教授	吉田 澄恵 (58) <令和3年4月>
		看護機能推進特論 看護教育論 文献講読 看護職キャリア支援特論 看護職キャリア支援演習 看護理論 特別研究(修士論文)
専	准教授	伊藤 美千代 (55) <令和3年4月>
		看護機能推進特論 看護教育論 コミュニティ・ケア特論 コミュニティ・ケア演習
専	准教授	遠藤 亜貴子 (53) <令和3年4月>
		ヘルス・ケア・ローカリゼーション 看護機能推進演習 コミュニティ・ケア特論 コミュニティ・ケア演習
兼任	講師	加藤 星花 (47) <令和4年4月>
		コミュニティ・ケア特論 コミュニティ・ケア演習

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	川村 牧子 (59) <令和3年4月>
		7か7ミック・スキルⅡ(文章読解) コミュニティ・ケア特論 コミュニティ・ケア演習
専	准教授	田久保 由美子 (50) <令和3年4月>
		7か7ミック・スキルⅡ(文章読解) 看護機能推進演習 生涯発達看護特論 生涯発達看護演習 看護理論
専	准教授	山本 由子 (60) <令和3年4月>
		ケアシステム論 生涯発達看護特論 生涯発達看護演習 特別研究(修士論文)
専	講師	新井 麻紀子 (46) <令和3年4月>
		看護教育論 看護職キャリア支援特論 看護職キャリア支援演習
専	講師	安藤 瑞穂 (48) <令和3年4月>
		保健情報リテラシー 看護マネジメント特論 看護マネジメント演習 看護理論

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	川村 牧子 (60) <令和3年4月>
		7か7ミック・スキルⅡ(文章読解) コミュニティ・ケア特論 コミュニティ・ケア演習
専	准教授	田久保 由美子 (51) <令和3年4月>
		7か7ミック・スキルⅡ(文章読解) 看護機能推進演習 生涯発達看護特論 生涯発達看護演習 看護理論
専	准教授	山本 由子 (61) <令和3年4月>
		ケアシステム論 生涯発達看護特論 生涯発達看護演習 特別研究(修士論文)
専	講師	新井 麻紀子 (47) <令和3年4月>
		看護教育論 看護職キャリア支援特論 看護職キャリア支援演習
専	講師	安藤 瑞穂 (49) <令和3年4月>
		保健情報リテラシー 看護マネジメント特論 看護マネジメント演習 看護理論

【令和4年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	川村 牧子 (61) <令和4年4月>
		7か7ミック・スキルⅡ(文章読解) コミュニティ・ケア特論 コミュニティ・ケア演習
専	准教授	田久保 由美子 (52) <令和3年4月>
		7か7ミック・スキルⅡ(文章読解) 看護機能推進演習 生涯発達看護特論 生涯発達看護演習 看護理論 特別研究(修士論文)
兼任	講師	山本 由子 (62) <令和3年10月>
		ケアシステム論 生涯発達看護特論 生涯発達看護演習
専	准教授	渡邊 章子 (55) <令和3年10月>
		看護機能推進演習 生涯発達看護特論 生涯発達看護演習
専	講師	新井 麻紀子 (48) <令和3年4月>
		看護教育論 看護職キャリア支援特論 看護職キャリア支援演習
専	准教授	安藤 瑞穂 (50) <令和3年4月>
		保健情報リテラシー 看護マネジメント特論 看護マネジメント演習 看護理論

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	講師	大西 淳子 (42) <令和3年4月>
		ケアシステム論 看護マネジメント特論 看護マネジメント演習
専	講師	鈴木 みゆき (51) <令和3年4月>
		ヘルス・ケア・ロケーション 看護教育論
専	講師	田所 由利子 (41) <令和3年4月>
		看護研究方法Ⅱ(演習) 生涯発達看護演習
専	講師	平田 美和 (48) <令和3年4月>
		看護機能推進演習 看護教育論
専	講師	藤巻 郁朗 (47) <令和3年4月>
		看護機能推進演習
専	講師	山花 令子 (50) <令和3年4月>
		看護理論 看護研究方法Ⅱ(演習) コミュニティ・ケア演習

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	講師	大西 淳子 (43) <令和3年4月>
		ケアシステム論 看護マネジメント特論 看護マネジメント演習
専	講師	鈴木 みゆき (52) <令和3年4月>
		ヘルス・ケア・ロケーション 看護教育論
専	講師	田所 由利子 (42) <令和3年4月>
		看護研究方法Ⅱ(演習) 生涯発達看護演習
専	講師	平田 美和 (49) <令和3年4月>
		看護機能推進演習 看護教育論
専	講師	藤巻 郁朗 (48) <令和3年4月>
		看護機能推進演習
専	講師	山花 令子 (51) <令和3年4月>
		看護理論 看護研究方法Ⅱ(演習) コミュニティ・ケア演習

【令和4年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	講師	大西 淳子 (44) <令和3年4月>
		ケアシステム論 看護マネジメント特論 看護マネジメント演習
専	講師	鈴木 みゆき (53) <令和3年4月>
		ヘルス・ケア・ロケーション 看護教育論
専	講師	田所 由利子 (43) <令和3年4月>
		看護研究方法Ⅱ(演習) 生涯発達看護演習
兼任	講師	平田 美和 (50) <令和4年4月>
		看護教育論
専	講師	藤巻 郁朗 (49) <令和3年4月>
		看護機能推進演習
兼任	講師	山花 令子 (52) <令和4年4月>
		看護理論 看護研究方法Ⅱ(演習) コミュニティ・ケア演習

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専 助教		崎山 紀子 (53) <令和3年4月>
		コミュニティ・ケア演習
専 助教		増澤 祐子 (39) <令和3年4月>
		看護研究方法Ⅰ(リテラシー)生涯発達看護演習 文献講読
兼任 講師		佐藤 紀子 (55) <令和3年4月>
		看護理論
兼任 講師		浅井 美千代 (57) <令和3年4月>
		看護理論
兼任 講師		山本 伸裕 (50) <令和3年4月>
		生命倫理
兼任 講師		松繁 卓哉 (47) <令和3年4月>
		ケアシステム論

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専 助教		崎山 紀子 (54) <令和3年4月>
		コミュニティ・ケア演習
専 助教		増澤 祐子 (40) <令和3年4月>
		看護研究方法Ⅰ(リテラシー)生涯発達看護演習 文献講読
兼任 講師		佐藤 紀子 (56) <令和3年4月>
		看護理論
兼任 講師		浅井 美千代 (58) <令和3年4月>
		看護理論
兼任 講師		山本 伸裕 (51) <令和3年4月>
		生命倫理
兼任 講師		松繁 卓哉 (48) <令和3年4月>
		ケアシステム論

【令和4年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専 講師		伊東 真理 (41) <令和3年10月>
		7かミツク・スルⅡ(文章読解) コミュニティ・ケア演習
専 講師		石井 まりえ (42) <令和4年4月>
		看護機能推進演習
兼任 講師		増澤 祐子 (41) <令和4年4月>
		看護研究方法Ⅰ(リテラシー) 文献講読
兼任 講師		佐藤 紀子 (57) <令和3年4月>
		看護理論
兼任 講師		浅井 美千代 (59) <令和3年4月>
		看護理論
兼任 講師		山本 伸裕 (51) <令和3年4月>
		生命倫理
兼任 講師		松繁 卓哉 (48) <令和3年4月>
		ケアシステム論

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	入江 俊夫 (49) <令和3年4月>
		アカデミック・スキル I (文章表現)
兼任	講師	飯岡 由紀子 (52) <令和3年4月>
		看護研究方法 I (リテラー)

【令和3年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	入江 俊夫 (50) <令和3年4月>
		アカデミック・スキル I (文章表現)
兼任	講師	飯岡 由紀子 (53) <令和3年4月>
		看護研究方法 I (リテラー)

【令和4年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	入江 俊夫 (51) <令和3年4月>
		アカデミック・スキル I (文章表現)
兼任	講師	飯岡 由紀子 (54) <令和3年4月>
		看護研究方法 I (リテラー)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

--

【令和2年度】

--

【令和3年度】

該当なし

【令和4年度】

<ul style="list-style-type: none">・令和4年3月加藤星花准教授辞任。コミュニティ・ケア特論、演習は本人が担当コマを兼任講師として引続き担当。看護機能推進特論の担当コマは篠木絵理教授に変更、生涯発達看護特論は渡邊章子准教授に変更。・令和4年3月川村牧子准教授辞任。担当科目の担当コマは、本人が兼任講師として引続き担当。・令和3年9月山本由子准教授辞任。生涯発達看護特論、演習ケアシステム論は本人が担当コマを兼任講師として引続き担当。特別研究（修士論文）令和3年10月よりは田久保准教授に変更。・令和4年3月平田美和講師辞任。看護教育論の担当コマは本人が兼任講師として引続き担当。看護機能推進演習は石井まりえ講師に変更。・令和4年3月山花令子講師辞任。担当科目の担当コマは、本人が兼任講師として引続き担当。・令和3年9月崎山紀子助教辞任：コミュニティ・ケア演習の担当コマは伊東真理講師に変更。・令和4年3月増澤祐子助教辞任：看護研究方法1、文献講読の担当コマは本人が兼任講師として引続き担当。生涯発達看護演習は、渡邊章子准教授に変更。・令和3年10月に渡邊章子准教授、伊東真理講師、及び令和4年4月に石井まりえ講師が就任。教員審査省略。
--

- (注) ・ 変更内容を簡潔書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
6	6	6
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計（A）	助手（A'）	教授	准教授	講師	助教	計（B）	助手（B'）
6	6	8	2	22	0	6	5	7	0	18	0
(6)	(6)	(8)	(2)	(22)	(0)						
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/		
6	6	10				6	6	6			
(6)	(6)	(10)				[0]	[0]	[0]			
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計（C）	助手（C'）	教授	准教授	講師	助教	計（D）	助手（D'）
6	6	8	1	21	0	6	7	8	1	22	0
[0]	[0]	[0]	[-1]	[-1]	[0]	[0]	[+1]	[0]	[-1]	[0]	[0]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/		
6	6	9				6	6	10			
[0]	[0]	[-1]				[0]	[0]	[0]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{21}{22} = \boxed{95.45} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{0}{18} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし								
合計 (D)						後任補充状況の集計 (E)				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	0	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	0	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した**全ての専任教員**の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、**赤字**にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び() 書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
1	准教授	山本由子	R3.9	選択	生涯発達看護特論	②	本人都合により辞任 (R4)						
				選択	生涯発達看護演習	②							
				選択	ケアシステム論	②							
				必修	特別研究（修士論文）	①							
2	准教授	川村牧子	R4.3	選択	777 ショク・スル II (文章読解)	②	本人都合により辞任 (R4)						
				選択	コミュニティ・ケア特論	②							
				選択	コミュニティ・ケア演習	②							
				必修	特別研究（修士論文）	①							
3	准教授	加藤星花	R4.3	選択	コミュニティ・ケア特論	②	本人都合により辞任 (R4)						
				選択	コミュニティ・ケア演習	②							
				必修	看護機能推進特論	①							
				選択	生涯発達看護演習	①							
4	講師	平田美和	R4.3	選択	看護教育論	②	本人都合により辞任 (R4)						
				必修	看護機能推進演習	①							
5	講師	山花令子	R4.3	選択	看護理論	②	本人都合により辞任 (R4)						
				選択	看護研究方法 II (演習)	②							
				選択	コミュニティ・ケア演習	②							
6	助教	崎山紀子	R3.9	選択	コミュニティ・ケア演習	①	本人都合により辞任 (R4)						
7	助教	増澤祐子	R4.3	必修	看護研究方法 I (リポート)	②	本人都合により辞任 (R4)						
				選択	生涯発達看護演習	①							
				必修	文献講読	②							
合計 (F)						後任補充状況の集計 (G)							
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)				
7	人	必修	5	科目	必修	3	科目	必修	2	科目	必修	0	科目
		選択	9	科目	選択	0	科目	選択	9	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	14	科目	計	3	科目	計	11	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び() 書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)						後任補充状況の集計 (E) + (G)							
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)				
7	人	必修	5	科目	必修	3	科目	必修	2	科目	必修	0	科目
		選択	9	科目	選択	0	科目	選択	9	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	14	科目	計	3	科目	計	11	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{7}{22} = \boxed{31.81} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

(注) ・ (3) -①、(3) -②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
		該当なし						
合計					後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	0	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	0	科目	自由	科目	自由	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

退職した専任教員7名が単独で受け持っていた講義は無くもともと複数の教員で担当していること、崎山助教を除く6名は兼任講師として令和4年度も引続き概ねの講義を担当すること、更に渡邊章子准教授、伊東真理講師、石井まりえ講師を新たに採用(学部兼任)し、科目担当者内で授業の目的・内容を共有することによって、教育の質を担保している。大学院生に対してはシラバスにて周知しており、院生は履修登録の前に担当教員を確認できる(R4)。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画
	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<千葉看護学研究科 看護学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 東京医療保健大学大学院千葉看護学研究科FD委員会規程を制定し、千葉看護学研究科FD委員会（教員3名）を設置している。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 令和3年6月に第一回目の委員会を開催。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none">・各委員の役割分担の決定・令和3年度の委員会の活動方針の決定 <p>定期研修会（月一回目途）、及び、集中FD研修会（夏期、春季に各1回）の併用にて進める。</p> <p>② 実施状況</p> <ul style="list-style-type: none">・研究科授業参加：科目担当教員以外の授業への参加、及びオンデマンドでの授業視聴を可能としている。・研究科授業検討会：APに照らした授業内容と運営に関するディスカッションの実施（5月、6月、7月）。 <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期</p> <ul style="list-style-type: none">・前期授業に対しては、令和3年10月に、後期授業に対しては授業修了の都度アンケートを実施。 <p>実施方法：授業評価アンケート専用のシステムにて、学生が一人一人自ら回答する。</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等</p> <p>教員に対しては、各教員に回覧できるように結果を報告し、授業改善等に努めるとともに学生に対しては、館内にスペースを設け、結果を掲示する。</p>
--

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

- ・本学学則第3条(注)に則り、本学全体の教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するため、自己点検・評価委員会を設置している。

(注) 第3条 本大学院は、教育研究水準の向上を図り、大学院の目的及び社会的使命を達成するため大学院における教育及び研究活動等について自ら点検及び評価を行いその結果を公表する。

- 2 本大学院に自己点検・評価を行うため、東京医療保健大学大学院自己点検・評価委員会を独立した特別委員会として設置する。
- 3 自己点検・評価に関する事項は別に定める。

- ・自己点検・評価委員会においては、本学の建学の精神及び教育目標・教育目的を具現化するために、教育研究活動に必要な組織・制度と諸条件を整備し、その機能を十分発揮できるよう本学の教育研究に関する活動状況並びに組織、施設・設備、運営状況等について、自己点検・評価を実施するとともに、所要の改善を図ることとしている。

- ・本学においては、平成20年度に開学後初となる自己点検・評価を実施し、その結果を報告書としてまとめ、ホームページに公表。平成21年度以降毎年度、自己点検・評価を実施し、公表している。

- ・平成30年度には、公益財団法人大学基準協会による大学評価(認証評価)を受審し、大学基準に適合していると認定。評価結果は平成31年4月5日にホームページに公表済。
なお、認定の期間は、平成31年4月1日から令和8年3月31日までとされている。

自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

- ・令和4年度点検・評価報告書については、令和4年6月1日 公開予定。

b 公表方法

- ・点検・評価報告書については、本学の大学経営会議及び理事会・評議員会において審議・承認を経た後、ホームページ上に公開している。

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和7年度に公益財団法人大学基準協会による大学評価(認証評価)を受審する予定。

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表(予定)時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。